

The Shinro Journal とは・・・松江東高校進路指導部が発刊する情報紙です。主に進路に関する情報提供や、各種行事や講座の案内・報告を行っていきます。



「自分らしい仕事」はどうやって探すのか？

校長 野々村 卓

今、東高では中学3年生や保護者向けのPR動画を作成しています。例年6～7月に実施している各中学校での高校説明会が、コロナウィルス感染予防のため全て中止になり、PR動画を各中学校に送付することになりました。本校のHPにも載せますので、ぜひ皆さんもご覧ください。その冒頭部分で生徒会長の野津君が中学生へのメッセージを述べています。彼は東高に入って良かったことを2つあげています。

1つ目は、部活動と勉強の両立ができ、とても充実した生活ができたこと。

2つ目は、普段の学校生活を通して新しい自分を発見することができ、この3年間を通して自分の進路を見つけることができたこと。

私は、東高の皆さんが学校生活の中で野津君がいう新しい自分(「未見の我」)を発見し、自分で自分の進路を見つけて欲しいと思っています。そしてその進路の先には皆さんが「自分らしい仕事」と思える仕事に就いて欲しいと願っています。

「自分らしい仕事」とは、どうやって探すのでしょうか？

それは自分が興味を持って学んでみたいと思えるもの(「学びのタネ」)を見つけるところから始まると思います。この「学びのタネ」は、毎日の教科の授業、総合的な探究の時間、部活動や生徒会活動など様々な場面で自分から動くことで見つかります。普段の授業や部活動の中で「何で？」とか「どうしたらこうなるのか？」という疑問を持ち興味や知的好奇心を持つことが大切です。

そして、興味あるものが見つかったら、授業や学校の枠にとらわれず自分自身が動き出すことが大切です。昨年、島根大学で何回か開かれた理系のプログラムを受講した人が何人もいました。また県が主催する「マイプロジェクト」に参加した人もいます。英検の準一級を取った人や、数学が好きで自分でどんどん難しい問題に挑んでいる人もいます。今の時代、読書やテレビだけでなく、インターネット端末で調べることは簡単にでき、深く考えるための知識はどこからでも手に入れることができます。いずれにしても、自分から何かを得ようと自分のアンテナを高く立て、自分から動き始めてください。

一度面白いと思うことを見つければ、高校生はどんどん伸びていきます。その学びを、大学や専門学校で大きく育ててください。そして、皆さんが東高で見つけた「学びのタネ」が大きく育ち、社会とつながり、「自分らしい仕事」を探すことができ、もし社会にそのような仕事なければ自分で仕事をつくってあげればいいのです。社会で出て「自分らしい仕事」だと誇りを持って働く大人になってください。

～共通テスト(国語)私も解いてミタ～

第2回試行調査(プレテスト)の分析

第1問(論理的文章の読解)

論理的文章および図表、著作権に関するポスター、著作権法の条文の三つを読んで解答する問題。その論理的文章も著作権について述べたもので、実用的で実務的な内容となっている。これまでセンター試験では複数の文章・資料を踏まえた出題はなかった。第1回目の調査も複数の資料を踏まえたものであったことを考えると、本番も間違いなく複数の文章・資料(片方だけの可能性はあり)を絡めたものであると思われる。

前回の試行調査(プレテスト)では、文学的文章で出題されていた漢字の問題が今回は論理的文章の中で出題された。この形の方がすわりは良いということか。

問3は文章全体を踏まえた内容正誤問題となっている。センター試験でも同形式はあったが、これまでは最後のあたりで問うのが普通であった。これを問3でとは、少々面食らった人もいたのでは。問5は表現の問題、これもセンター試験頻出。他の問2・4・6は資料・ポスター・図表を絡めた問題となっている。

第2問(文学的文章の読解)

詩とその同一作者のエッセイとを読んで解答する問題。第2問はこれまで一貫して小説であり、複数資料と絡めた点でも新奇な出題である。問1で第1回試行調査ではなかった語句の意味を問う設問が復活した。問2は「エッセイの内容を踏まえて」とあり、複数の資料を読ませて考えさせるという共通テストの基本方針に沿った設問となっている。問6は表現・構成を問う問題であり、近年のセンター試験の傾向を踏襲したもの(結構難度は高いと感じた)。

第3問(古文の読解)

源氏物語からの出題。分量は少ないが、読解には少々苦勞するものと思われる。問1～問4までは問題文に関するもので、最後の1問が引き歌とその背景に関する短い文章を絡めた設問となっている。第1回試行調査に比べると、複数の資料を読ませて考えさせることをあまりさせていない。問2で語句の意味の問題が今回復活。第1回試行調査同様文法の単独問題はなかった。現代文ほどの目新しさはなく、全体にセンター試験の傾向を踏襲したものとなっている。

第4問(漢文の読解)

故事成語(朝三暮四)と関連のある漢文と当該の故事成語の現代語訳(極めて短い)とで構成されている。文章は過去のセンター試験と比べて極めて平易である。設問も従来型がほとんど。これは第1問～第3問とのバランスによるものと見て差し支えないだろう。漢文にある程度時間を割けた人は高得点であったと思われる。逆に第1問から順に解いた人は時間切れであった人が多かったのでは。解きにくい設問に時間をかけすぎないようにすべきであり、まさに「**見切り千両**(損失が少ないうちに見切りをつけることは、千両もの価値がある)」である。

全体に文章だけでなく表や資料を見て解かなければいけないため、少々忙しい。生徒の皆さんはこのタイプの設問に慣れていない。ある程度の量を積まないといけないだろう。特に**現代文はセンター試験とは別物と考えた方がよい**。過去問演習よりも共通テスト予想問題集を勧める。平素の対策として新聞を読むこと、それも図表を伴った記事を読むことを推奨したい。古文漢文は今回の調査では新しさはほとんど出ておらず、従来の対策で十分である。しかし、第1回調査では複数資料に絡めた傾向は顕著であった。本番ではどちらの傾向のものとなるかは定かでない。各業者の模試も二通りのパターン(第1回試行調査を踏まえたもの・第2回試行調査を踏まえたもの)を出題してくるだろう。

新奇の問題に目がいきがちであるが、**まずは基礎力の養成が第一であることを肝に銘じて欲しい**。授業の予習・復習をしっかりとやるのが合格への近道であることは不易である。